



少子化に関する県民意識調査結果概要

1 調査の目的

県内における子育ての現状や少子化対策に関する県民の意識やニーズ等を調査し、特性を把握するとともに、新たな岐阜県少子化対策基本計画策定のための基礎資料とする。

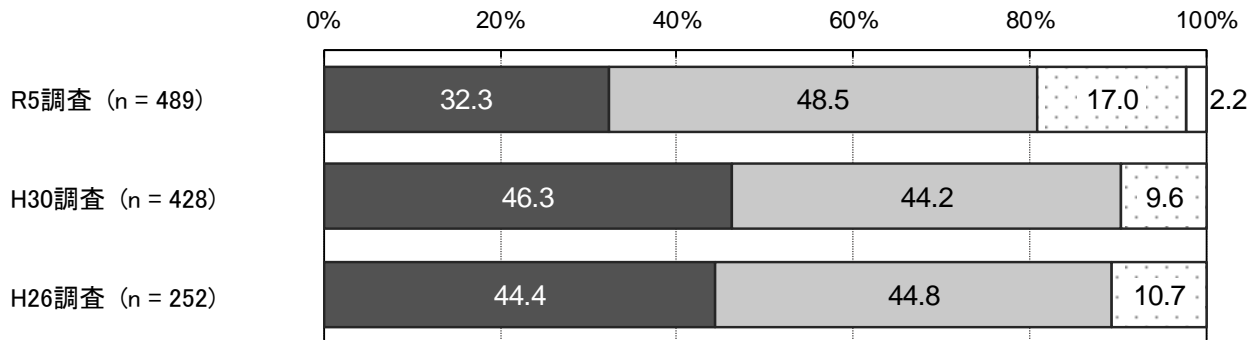
2 調査対象及び回答者数等

調査対象	県内に居住する満18歳以上50歳未満の男女各2,000人 計4,000人
抽出・調査方法	住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法（郵送・オンライン）
調査期間	令和5年9月6日～30日
回答者数	1,429人（回収率35.7%）

I 独身者の結婚に関する意識

- 独身者の約8割が「いずれ結婚するつもり」と回答しており、独身でいる理由は、男女ともに「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も多い。過去の調査と比較すると、「一生結婚するつもりはない」の割合が増加している。

図1 結婚の意思



- いずれ結婚するつもり(ある程度の年齢までには結婚するつもり)
- いずれ結婚するつもり(理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない)
- 一生結婚するつもりはない
- 無回答

図2 独身でいる理由（3つ以内選択）

(%)

項目	回答者数 (件)	若 婚 す ぎ す る か ら は ま だ	感 じ 婚 す る 必 要 性 を	い 学 か 業 は ら に 仕 打 事 ち へ 込 ま た は	楽 今 は み 、 趣 味 や 娯 楽 を	を 独 身 の 自 由 な い 気 楽 さ	め 適 当 な 相 手 に ま だ ら	合 異 性 な い か ら ま く 付 き	
未婚の方(総数)	489	15.1	24.7	15.3	24.1	23.3	45.4	18.2	
性別・結婚の意思別	男性・いずれ結婚するA	82	29.3	8.5	20.7	18.3	11.0	46.3	17.1
	男性・いずれ結婚するB	118	6.8	23.7	9.3	22.9	29.7	58.5	24.6
	男性・結婚するつもりはない	49	6.1	55.1	4.1	24.5	36.7	12.2	34.7
	女性・いずれ結婚するA	76	28.9	2.6	26.3	23.7	7.9	46.1	10.5
	女性・いずれ結婚するB	119	10.9	30.3	16.8	31.1	32.8	57.1	12.6
	女性・結婚するつもりはない	34	8.8	61.8	8.8	26.5	20.6	17.6	17.6

項目	か 経 済 的 な 余 裕 が な い	か 宅 婚 の め 生 活 が 立 た な い	か 意 親 ら し や な 周 い 囲 が だ 結 婚 に 同	そ の 他	て す い で に 結 婚 が 決 ま つ	無 回 答	
未婚の方(総数)	28.8	3.1	1.4	4.9	1.8	2.5	
性別・結婚の意思別	男性・いずれ結婚するA	32.9	6.1	1.2	1.2	4.9	1.2
	男性・いずれ結婚するB	44.9	2.5	2.5	1.7	0.0	1.7
	男性・結婚するつもりはない	32.7	6.1	2.0	8.2	0.0	0.0
	女性・いずれ結婚するA	18.4	3.9	1.3	5.3	6.6	1.3
	女性・いずれ結婚するB	21.8	0.8	0.8	6.7	0.0	0.8
	女性・結婚するつもりはない	11.8	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0

※「いずれ結婚するA」は、「いずれ結婚するつもり(ある程度の年齢までには結婚するつもり)」。

※「いずれ結婚するB」は、「いずれ結婚するつもり(理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない)」。

※「結婚するつもりはない」は、「一生結婚するつもりはない」。

II 理想子ども数と予定子ども数

- 理想の子ども数は平均2.46人、予定の子ども数（現在の子ども数1.87人+今後持つつもりの子どもの数0.48人）は平均2.35人で、その差は0.11人となっている。前回調査と比較すると、理想の子ども数が0.08人減少している。

図3 平均理想子ども数と予定子ども数(既婚者)

(人)

項目	理想の 子どもの数	予定の子どもの数		
		現在の 子どもの数	今後もつづ 子どもの数	計
R5調査平均人数	2.46	1.87	0.48	2.35
H30調査平均人数	2.54	1.72	0.56	2.28
H26調査平均人数	2.58	1.73	0.32	2.05

※配偶者(事実婚を含む)と同居している方の回答を集計

- 予定の子ども数が理想の子ども数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が64.4%で最も高く、次いで、「自分や配偶者が高齢だから」、「働きながら子育てできる職場環境がないから」となっている。

図4 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由(複数選択可)

(%)

項目	回答者数 (件)	か 子 育 て や 教 育 に お 金 が か か り す ぎ る か ら	い 保 育 サ ー ビ ス が 整 っ て い な い か ら	か 雇 用 が 安 定 し て い な い か ら	る 働 き な が ら 子 育 て で き る 職 場 環 境 が な い か ら	し 自 分 の 昇 進 ・ 昇 格 に 差 支 え る か ら	家 が 狭 い か ら	社 会 環 境 で な い か ら	子 ど も の び の び 育 つ た ら い か ら	切 自 分 や 夫 婦 の 生 活 を 大 切 に し た い か ら	だ 自 分 や 配 偶 者 が 高 年 齢 だ か ら
性別・ 結婚の有無別	男性・未婚者	124	72.6	13.7	29.0	21.0	3.2	8.9	24.2	17.7	17.7
	男性・既婚者	99	63.6	14.1	6.1	32.3	0.0	11.1	11.1	9.1	43.4
	女性・未婚者	113	60.2	17.7	14.2	31.9	5.3	0.9	25.7	14.2	15.0
	女性・既婚者	204	62.3	11.8	9.8	28.4	3.4	10.3	14.7	10.3	42.6
項目		ら 負 自 担 に や 耐 え ら れ な い か ら	嫌 体 的 妊 婦 の 精 神 的 な 苦 痛 が 身 に あ ら う か ら	健 康 上 の 理 由 か ら	ん 欲 を し 授 け ら れ な い か ら 赤 ち や ん の 身 を 守 ら な い か ら	参 加 し な い か ら 事 務 に 関 与 し な い か ら	配 偶 者 が 望 ま ない か ら	そ の 他	無 回 答		
理想の子どもの数を持つ 予定のない方(総数)	21.0	13.0	11.6	10.7	3.1	5.2	12.3	0.7			
性別・ 結婚の有無別	男性・未婚者	18.5	2.4	8.9	0.0	1.6	2.4	14.5	0.8		
	男性・既婚者	27.3	9.1	10.1	20.2	0.0	12.1	7.1	0.0		
	女性・未婚者	23.9	21.2	12.4	3.5	0.0	0.9	17.7	1.8		
	女性・既婚者	18.1	17.2	13.7	17.2	7.4	5.9	10.8	0.0		

Ⅲ 子どもがいる人の子育てに関する意識

- 子育てをして良かったと思うこととして、約7割の方は、「子どもが成長すること」、「子どもを持つ喜びを実感できる」、「家庭が明るくなる」などと回答している。

図6 子育てをして良かったと思うこと（複数選択可）

項目		総数 (n = 816)	(%)	
			男性 (n = 273)	女性 (n = 528)
1	家庭が明るくなる	67.5	70.0	66.5
2	家族の会話が増える	56.1	59.0	54.5
3	夫婦の愛情がより深まる	20.1	22.3	18.8
4	生活にはりあいができる	39.3	41.0	38.4
5	子育てを通じて友人が増える	32.5	20.5	38.4
6	子育ての経験が仕事などで役立つ	25.6	23.1	26.5
7	子どもから教えられることがある	64.8	55.7	68.8
8	子どもをもつ喜びを実感できる	68.1	64.8	70.1
9	子育てにより自分が成長できる	61.3	54.9	64.0
10	親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる	48.3	40.3	51.9
11	子どもが成長すること	<u>73.9</u>	<u>75.5</u>	<u>73.3</u>
12	その他	2.5	1.5	3.0
13	良いと思うことは特にない	1.5	0.7	1.9
	無回答	0.4	0.4	0.2
	客体数	816	273	528

※子どもがいる方だけの回答を集計

- 子育てをして負担に思うこととして、「子育てに出費がかさむ」と答えた方は6割を超えており、次いで「自分の自由な時間がもてない」、「子育てによる身体的な疲れが大きい」となっている。

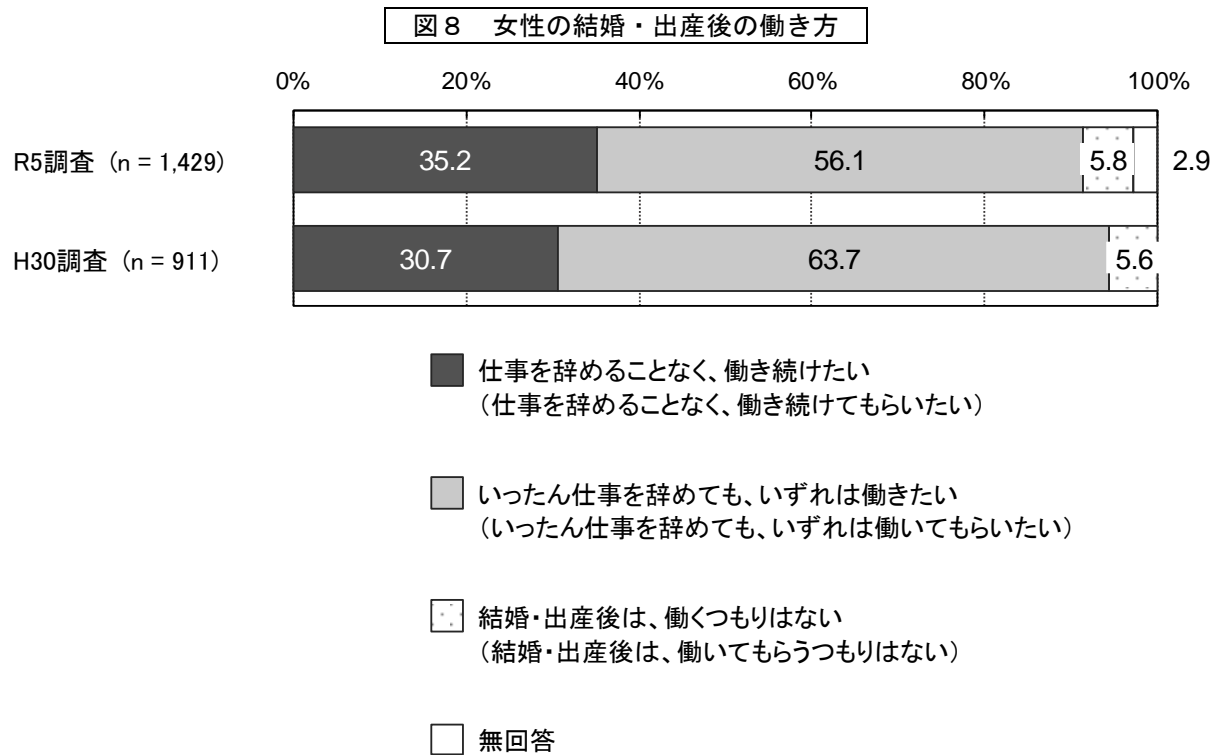
図7 子育てをして負担に思うこと（複数選択可）

項目	総数 (n = 816)	（％）	
		男性 (n = 273)	女性 (n = 528)
1 子育てによる身体的な疲れが大きい	45.0	34.8	50.6
2 子育てによる精神的な疲れが大きい	41.4	29.3	47.3
3 子育てに出費がかさむ	62.4	64.8	61.7
4 自分の自由な時間がもてない	48.9	45.8	50.4
5 夫婦で楽しむ時間がない	16.5	25.6	11.7
6 仕事が十分にできない	23.8	11.4	29.5
7 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	5.3	2.9	6.3
8 困ったときや不安なときに相談できる人がいない	5.5	4.0	5.9
9 子育てが十分にできない	9.9	11.7	8.9
10 子どもが病気の時	30.5	24.5	34.1
11 その他	2.2	1.5	2.5
12 負担に思うことは特にない	7.7	9.2	7.0
無回答	1.0	1.5	0.6
客体数	816	273	528

※子どもがいる方だけの回答を集計

Ⅳ 仕事と子育ての両立に関する意識

- 女性が結婚・出産後も、「仕事を辞めることなく、働き続けたい(仕事を辞めることなく、働き続けてもらいたい)」の割合が増加傾向にある。



- 女性が子育てをしながら働く上での問題点として、「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」と回答した方が67.5%で最も高く、次いで「仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい」が62.9%となっている。

図9 女性が子育てをしながら働く上での問題点（複数回答可）

		(%)	
項目	総数 (n = 1,429)	男性	女性
		(n = 571)	(n = 835)
1	子育てに十分な時間をかけることができない	50.6	50.4
2	子育てを重視しながら働くことに 上司や同僚の理解・協力が得られない	38.0	40.2
3	在宅勤務、短時間労働など柔軟な雇用条件が 整備されていない	39.1	42.5
4	仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい	59.0	65.5
5	仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい	64.8	69.7
6	通勤時間が長い	6.7	7.8
7	昇給や昇進に不利である	21.2	22.5
8	休みがとりにくい、残業が多い	27.3	36.2
9	転勤がある	6.8	6.6
10	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟 な対応ができない	45.4	53.4
11	子どもを預けられる保育所や認定こども園がない	16.5	11.9
12	子どもを預けられる放課後児童クラブ(学童保育)が ない	12.1	11.3
13	保育所・認定こども園や放課後児童クラブ以外に 子どもを預けられる施設がない	10.9	12.3
14	子どもの病気の時や急な残業に対応してくれる 保育サービスがない	20.0	27.3
15	保育サービスにお金がかかる	28.4	29.1
16	配偶者が家事・育児に参加しない	10.2	21.6
17	家族(配偶者以外)の理解・協力が得られない	5.6	6.7
18	その他	3.0	2.5
19	特に問題はない	2.6	1.6
	無回答	2.5	0.8

- 子育てをする人にとって職場が働きにくい原因としては、「日常的に労働時間が長い」、「有給休暇が取りづらい雰囲気がある」と回答した方が多い。

図10 職場が子育てをする人にとって働きにくい原因（複数選択可）

項目	総数 (n = 402)	(%)	
		男性 (n = 208)	女性 (n = 194)
1 子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	29.4	34.6	23.7
2 日常的に労働時間が長い	49.5	56.7	41.8
3 通勤時間が長い	13.9	15.9	11.9
4 始業・就業時間が固定的である	27.6	25.0	30.4
5 営業時間の制約（顧客対応や長時間開店など）がある	13.7	13.5	13.9
6 ひとりひとりの業務量が多い	36.6	40.9	32.0
7 有給休暇が取りづらい雰囲気がある	41.3	43.3	39.2
8 育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある	33.6	36.5	30.4
9 育児支援制度の利用が昇進や昇給に不利である	9.7	12.5	6.7
10 転勤がある	8.0	9.1	6.7
11 職場で継続就業してキャリア形成している例がない	9.0	6.7	11.3
12 子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	31.8	28.4	35.6
13 復職にあたっての異動・配置の本人希望が通りにくい	8.7	6.7	10.8
14 その他	5.7	1.9	9.8
無回答	0.2	0.5	0.0

※「あなたの職場は、子育てをする人にとって働きやすいと思いますか」という問いに対し、「あまりそう思わない」又は「まったくそう思わない」と回答した方の回答を集計

V 少子化に関する意識等

- 低出生率が続くことについて将来に危機感を持つ人は7割を超えており、過去の調査と比較すると、「大変危機感を感じている」の割合が増加している。具体的には、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」、「労働人口の減少など、経済の活力に与える影響」を懸念している方が多い。

図11 少子化に関する将来への危機感

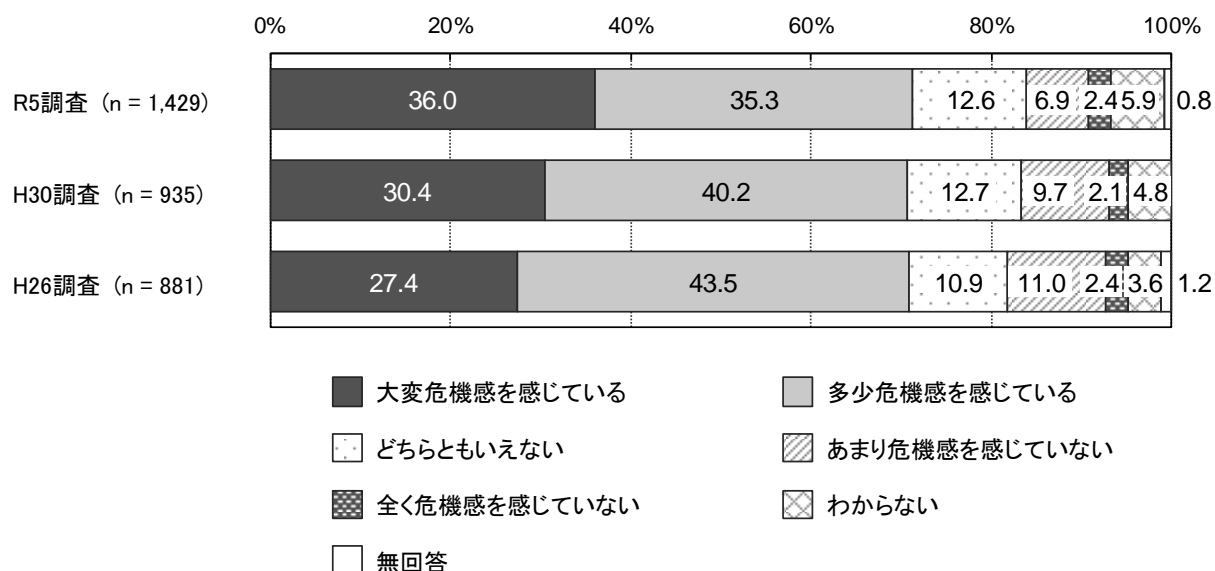


図12 少子化が与える影響

項目	総数 (n = 1,429)	(%)	
		男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1 過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響	41.9	46.2	39.2
2 労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響	67.1	71.3	64.2
3 年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響	76.5	76.0	76.9
4 学校の減少など、身近な日常生活に与える影響	21.8	24.7	19.8
5 切磋琢磨しあう同年代の子どもの減少など、子どもの健全な成長に与える影響	21.1	21.4	20.6
6 その他	3.6	5.1	2.6
7 少子化問題については関心がない	2.6	2.8	2.4
8 特になし	2.4	2.6	2.2
無回答	1.0	1.1	0.8

- 結婚を支援する施策としては、「賃金を上げて安定した家計を営めるような支援」を求める声が最も高く、次いで「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」、「安定した雇用機会の提供」となっている。

図 1 3 結婚を支援する施策として重要だと思うこと（3つ以内選択）

項目	総数 (n = 1,429)	(%)	
		男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1 安定した雇用機会を提供すること	32.2	30.6	33.8
2 賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること	58.4	57.8	59.0
3 結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	26.0	30.1	23.2
4 出会いの場を提供すること	26.8	32.0	23.4
5 結婚した方が有利となるような税制を行うこと	25.8	31.2	22.6
6 夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること	37.8	29.9	43.0
7 若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	8.1	10.9	6.0
8 その他	3.1	3.0	3.2
9 特にない	3.2	2.8	3.4
無回答	2.9	3.3	2.4

- 育児を支援する施策としては、「子育てに対する経済的支援の充実」を求める声が高く、次いで「教育費への支援の充実」、「柔軟な働き方を押し進める」となっている。

図14 育児を支援する施策として重要だと思うこと（3つ以内選択）

項目	総数 (n = 1,429)	(%)	
		男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1 保育所の時間延長など、多様な保育サービスを充実する	26.7	27.8	25.5
2 児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する	48.2	52.2	45.9
3 育児休業をとりやすい職場環境を整備する	28.6	29.9	27.5
4 フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を押し進める	29.0	25.4	31.6
5 時間外勤務を短縮するなど、男性の育児参加を促進する	19.7	19.8	19.8
6 育児休業中の所得保障を充実する	17.8	18.4	17.7
7 出産・育児による退職後の再就職支援を充実する	15.3	9.3	19.4
8 子どもの医療費への支援を充実する	13.9	14.0	13.9
9 教育費への支援を充実する	34.6	36.1	34.3
10 子どもを連れて安心して外出できる地域環境を整備する	10.6	11.4	10.3
11 育児について相談する場、親同士が交流できる場を提供する	3.6	3.2	4.0
12 その他	3.1	3.2	3.1
13 特になし	2.5	3.5	1.8
無回答	3.1	3.3	2.6